



柳岡 克子 (やなおか よしこ) さん

プロフィール

○昭和39年11月 和歌山県御坊市生まれ
○慶風高校非常勤講師／薬剤師／社会福祉士／ケアマネージャー／障害者団体役員／FP
年金アドバイザー／身体障害者相談員／キャリアカウンセラー
○仮死状態で生まれ、両手足に重度の障害を持ちながら、2歳半まで病院で過ごす。母親の送り迎えで健常児と同じ幼稚園・小中高校を卒業。神戸学院大学薬学部在学中に手動式の車の運転免許取得
○障害者卓球と出会い、全国身体障害者スポーツ大会で金メダル。パラリンピックをめざし、卓球(クラス6)の世界大会で好成績
ONHK教育テレビ「きらっといきる」第15回ゲストとして出演し、「自殺する人をなくしたい!!」と命の尊さを熱く語る講演活動をスタートし、全国から依頼が殺到
○わかやま塾1期生／木国政経塾1期生
地方紙に随想を掲載中、さまざまな団体に所属和歌山県や御坊市の委員を委嘱されるなど幅広い活動をしている

(7)

2015年(平成27年)11月17日(火曜日)

「頑張ればできる」

柳岡さん野崎西小で講演

御坊市 「車いすの「歪配達人」として知られる御坊市の柳岡克子さん(51)が15日、和歌山市の野崎西小学校(小弘彦校長)で講演し、3年生と保護者らに「頑張ればいろんなことができる」とメッセージを送った。同小の目曜参観に合わせた教育講演会。3年生6人と保護者ら計100人以上が耳を傾けた。柳岡さんは仮死状態で生まれ、両手足



柳岡さんの質問に手を挙げる児童ら

に障害がある。講演では自身の生き立ちや学校生活、薬剤師としての働くようになったことなど人生の歩みを紹介した。

懸命に水泳を練習した小学生時代、周りを真逆とて勉強に励み、大学の薬学部合格を果たした体験などを通しては、「不自由な体でも頑張ったことでできることがあった。みんなも自分の取り得を伸ばしてほしい。そうすれば、誰にも負けないものが見つかるはず」と話した。体の不自由な人に出会った時には、何ができることはないかと声を掛け、両親が大変そうな時にはすぐに手伝いができるような「優しい心」を持った人になってほしい。自分がされたい嫌なことは相手にしないように、自分がしてもらったらうれしいことをしてあげてほしい」と呼び掛けた。講演は、床に落ちたものを拾ったりする際に柳岡さんが使っている道具などの紹介、実演などもあり、児童との質疑も交えて、笑いが広がる和やかな雰囲気の中で進んだ。

第21087号 H27.6.26

通称：柳岡さん

日高高校附属中学校は24日、道徳教育講演会を開き、体に障がいを持つ薬剤師・柳岡克子さんから「生きていく喜び」をテーマに講演を聴いた。柳岡さんは、自身の生き立ちや学生時代のエピソードを話しながら、日々の生活のなかで感謝や幸せを感じ、心を持つことが大切と説いた。神戸でのひとり暮らし

「感謝を忘れず」と柳岡さん 日高附属中で道徳講演会

で、腰が十分に曲がらないから自慢。「一人で行けまじか」と言いか、ゴミをケーションを取りながら手と一緒に考えてあげられる人になってほしい」とノーマライゼーションの正しい理解を求めた。

卓球と出会い、障害者もスポーツができると思ひ、だじかうれしくて、練習に打ち込み、全国大会や世界大会に出場するまでに至った経緯も紹介。練習での痛みを取るため薬を摂取しすぎ、倒れて100日入院して1カ月間苦痛生活を送ったことがきっかけで「試合に勝つなど自分のことばかり考えていたが、生き残って、人のために生きようと思った」と述べた。「損した気分になったときは、目に届かない天の銀行に貯金したと思つて、いつか喜びや幸せになつておるせると思つ」と柳岡さん。「この字はオキヤ」と言つて生まれなかつたから最初ではゼロ点だった。だから、歩けたことも、学校に行けたことも、働けたことも喜びで、100点をもらえた。元気に生まれていたらできて当然の『当たり前』がなかつたから」と、体の不自由な自分を生んだ母親の言葉にも触れ、命を大切に感謝する気持ちを忘れないうち呼びかけた。